



学会ホームページ <http://jasce.jp>

077号(2024年9月30日)

## 目次

第20回全国大会(福岡)のご案内  
『協同と教育』への投稿募集中  
学会主催のワークショップ(ベーシックコース)を開催しました  
第10回オンライン講座を開催しました  
第11回オンライン講座を開催しました  
第12回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内  
学会ワークショップ 今後の予定(判明分)  
各地の研究会・勉強会  
出版情報

## 第20回全国大会(福岡)のご案内

第20回大会を2024年10月26日(土)～27日(日)に中村学園大学・中村学園大学短期大学部(福岡市城南区)で開催します。本大会は「よい理論ほど実践的であるー協同の理論と実践の往還ー」をテーマに、協同を基盤におく教育や学習が発展し、さまざまな領域に浸透していくために、理論にもとづく実践や実践の気づきにもとづく理論作りといった理論と実践の往還が生まれる場になるよう準備を進めております。  
今大会は12件のワークショップと3件のラウンドテーブル、28件の口頭発表が予定されています。ま

た、1日目の午後には早稲田大学の河村茂雄教授をお招きしての記念講演(協同学習の成果は学級集団の状態に規定される一理想と現状の大きな乖離の中にある学校現場一)を開催します。大会特設ページ(<https://sites.google.com/view/jasce20>)にて大会日程を含むプログラム配置表とワークショップおよびラウンドテーブルの概要を公開しております。多くのみなさまの参加をお待ちしております。

本大会ではプログラムおよび大会要旨集録の印刷製本をおこないません。大会特設ページにて各種情報やプログラムを公開いたします。大会参加費納付済みの方には口頭発表の要旨が集録された「大会要旨集録」のアクセス情報をお届けします。

なお、事前の参加お申込と参加費のお支払い期限は10月18日となっております。会場での混雑を避けるためにも、できるだけ事前の参加申込と振込をお願いいたします。

(大会情報：<https://jasce.jp/conf.php>)

### 1. 大会テーマ

「よい理論ほど実践的であるー協同の理論と実践の往還ー」

### 2. 大会日程と会場

1日目：2024年10月26日(土)  
9:30～17:15

イブニングセッション17:30～

19:00

2日目：2024年10月27日(日)  
9:00～16:00

会場：中村学園大学2号館(福岡市城南区別府5-7-1)

### 3. 参加申込と参加費支払い期間

【事前参加申込】2024年8月1日(木)～10月18日(金)

【当日参加申込】2024年10月26日(土)～10月27日(日)

事前参加申込は振込完了をもって申し込み完了となります。大会参加費とその振込口座については学会ホームページにてご確認ください。年会費の振込口座とは異なります。

### 4. イブニングセッション

1日目の夕方にイブニングセッションとして立食形式で参加者間の情報交換の場を設けております。準備の都合上、事前支払いをお願いしております。お申し込み済みの方は10/7までに大会口座にお振り込みください。

### 5. 大会に関する問合せ先

日本協同教育学会 第20回大会大会実行委員会

E-mail：[taikai@jasce.jp](mailto:taikai@jasce.jp)

事前参加申し込みは10/18までです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第20回大会実行委員会委員長

野上 俊一

# JASCE

## 『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第20号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

## 学会主催のワークショップ(ベーシックコース)を開催しました

8月3日(土)、4日(日)、JASCE会長の高旗浩志先生より、岡山大学(東山ブランチ)をワークショップ会場としてご提供いただき、学会主催のワークショップ(ベーシックコース)を開催することができました。会場の東山ブランチは、岡山駅前の路面電車乗り場から東山線「東山」行きに乗り、終点の東山で下車し、徒歩10分の静かな住宅街の中にあります。ご担当の講師はサルバシオン有紀先生で、18名の受講者に加えマスターコース受講後の参加観察として2名の方が参加されました。猛暑の中、ご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

ワークショップは、サルバシオン先生の情熱と緻密な計画に基づいた展開で、それに呼応するかのように求道心旺盛な受講生が一体となった学び合いの場面が多くみられ、充実の2日間でした。1日目の夜は、高旗先生ご最良の素敵なお店「Ryoutei」で懇親会を開催しました。美味しいお料理に舌鼓を打ちつつ、北海道、東京、愛知、兵庫、大阪、地元岡山などから参加された方々と賑やかな語らいで盛り上がりました。

受講生からは、「講師の陽気さ、明

るさが参加者やワークショップ全体の雰囲気をもよほし、協同を促進してくださったと感じた」「講師の授業の実践を交えてのお話が身に染みた」、「協同学習の3つの定義を深めることができた。特に定義が実際の授業でどのように応用できるかを皆で考えることができた」、「協同のマインドがあれば、すぐに仲間になれる」、「協同学習を体験的に学ぶことができてよかった。職種は違っても同じような悩みがあり、それに向けた解決策も考えられてよかった」などの感想が挙げられました。

運営では至らぬことも多々あったかと思いますが、高旗先生のお力添えと皆様のご協力のもと無事故で終えることができましたことに、心より感謝申し上げます。

(研修委員会)



## 第10回オンライン講座を開催しました

6月22日(土)に第6回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員30名と一般3名の計33名でした。

今回は、「日本の協同学習(日本協同教育学会編, ナカニシヤ出版)」の「第11章 看護教育と協同学習」を執筆された緒方巧先生(元梅花女子大学教授)を講師としてお招きし、看護職の定義から終戦後の看護の発展、多職種連携教育、日本の看護教

育制度など、幅広い視点で詳細にわかりやすくご講演いただきました。グループ活動を通じて、看護教育の課題について意見交換ができ、新たな学びや協同学習の導入に対する意欲が高まりました。普段接することがない先生方と交流し、異なる視点からの意見を聞くことで、非常に有意義な時間となりました。

参加者からは、「どの分野でも『内化・外化』は知識や技能等の定着に必要なので、授業で積極的に組み入れたい」や、「手法を含めた協同学習のアプローチを学ぶ大変よい機会であった」、「看護教育の世界も教員養成の世界も似たところがあるのだということが分かった」、「国家試験合格が求められる看護教育では、知識を教え込む強迫観念が教員に強いと感じます。『学生には自ら学ぶ力があるから、知識を教え込む必要はない』ということを感じさせるためにはどのようなことが重要なのかということをお伺いすればよかったと、あとから思いました。」などの感想が寄せられました。

(研修委員会)

## 第11回オンライン講座を開催しました

9月7日(土)に第11回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員22名と一般3名の計25名でした。

今回は、「日本の協同学習(日本協同教育学会編, ナカニシヤ出版)」の「第12章 ポスト近代型能力の育成と協同学習」を執筆された原田信之先生(中部大学教授)を講師としてお招きし、次世代を担う子どもたちに求められる資質・能力について

# JASCE

様々な概念をふまえてご講義をいただきました。グループ活動では、社会的スキルを育成する意義を再確認し、それをどのように育成するかについて、日頃の実践を基に意見交換を行いました。全体共有でも、多様な対象者へ協同学習の実践や研究を重ねておられる先生方の活発な意見交換が行われ、大変有意義な時間となりました。

参加者からは「協同学習では、多様な視点を持つ仲間と意見を交わすことで、定型的な知識を実践の中で活かし、さらに非定型的な即応力や創造的な解決策を見つける能力を育成することができると感じました」や、「能力の三軸構造では、対象・他者・自己との対話の大切さを知り、協同学習で育成が期待される能力に関連して考える機会になりました。終了後に話題となったAIについても興味深く、Society5.0の影響も大きいのかと思い描きながら、新しい風潮にも適応することができるよう学び続けたいと思いました」、「教育をする目的を、社会生活を営むことが出来る、社会の一員としての役割を果たせる人材を育てることとするならば、AIの良いところを活用しながら不足する部分を補っていけば良いかと思いました」、「知識・スキルとコンピテンシー、2系統の学びをどう考えるのかという大切な視点を頂きました」、また、「協同教育学会ならではの支持的な風土のなかでの意見交換は他ではない場所です。また、研修後の情報交換会でも先生方のお話を聞くことができるとても勉強になります」などの感想が寄せられました。

(研修委員会)

## 学会ワークショップ 今後の予定 (判明分)

### <ベーシック>

11月30日(土)、12月1日(日)【主催】 申し込み受付中

会場：酪農学園大学(北海道江別市)

講師：石橋裕子・和田珠実

2025年3月22日(土)、23日(日)【主催】 申し込み受付中

会場：和洋学園九段スカイビル(東京都千代田区)

講師：佐瀬竜一・伏野久美子

### <アドバンス>

2025年3月8日(土)、9日(日)【主催】 申し込み受付中

会場：創価大学(東京都八王子市)

講師：水野正朗・関田一彦

最新情報、詳細情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>)からお願いいたします。

## 第12回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

12月14日(土) 14時から、第12回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第12回は北海道教育大学名誉教授の鹿内信善先生を講師としてお迎えし、第9章「看図アプローチと協同学習」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

(研修委員会)

## 各地の研究会・勉強会

(東京地域)

協同学習を用いた看護教育研究会 in Tokyo

◇6月29日(土) 13:30-16:30、杏林大学井の頭キャンパスにて、第2回の研究会を開催しました。看護教員の他、教育に関心のある方々が集い、参加者は30名になりました。

第2回目研究会のテーマは、「チームフローを生む学習集団で学びの場を広げる」です。

3月に開催した第1回研究会で、協同学習を進めていくにあたって、仲間と話し合うことを苦手とする学生、課題学習を行ってこない学生、真剣に取り組まない学生の対応に困難を感じる悩みが共有されました。そこで第2回は、チームメンバー全員の集中力や創造性、生産性が高まる状態、さらにチームメンバーの幸福感や協力性も高める、チームフ



# JASCE

ローを生む学習集団をどう育み学びの場を広げていくかをテーマに企画しました。講師に最首昌和先生(前公立中学校)をお迎えし、講義とグループワークにより、参加者同士で交流しながら体験を通して学びを深めました。ゲストアドバイザーとして、関田一彦先生(創価大学教育学部)にもご参加いただき最後にコメントもいただきました。

参加者からは、「様々な意見に触れることは刺激となりワクワクできた」「グループ内に安心感を得ながら、自ら没入できる時間がもてた」「温かい雰囲気の中で協同学習について深く学ぶことができた」「講師の先生の講義内容が実践に基づいた具体的なもので分かりやすかった」「欲しいと思っていた答えが得られた」等の感想がありました。今後の研究会では、学んだことをどのように活用し実践したか、実践して見えてきた課題等について、意見交換を行なう機会も作りたいと考えています。

◇第3回の研究会は2025年3月15日(土)(注)13:30から予定し、テーマや会場は企画調整中です。決定しましたら、本研究会HPでお知らせします。今後ともよろしく願いいたします。

(注)第2回研究会でお知らせした11月23日より変更になりました。

協同学習を用いた看護教育研究会 In Tokyo HP:

<https://sites.google.com/view/intokyo/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

連絡先: 代表 添田百合子 (ysoeda@soka-u.jp)、副代表 武信真理子



## (大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会  
◇第54回「協同学習を用いた看護教育研究会」を8月17日(土)13時30分から17時30分、グランフロント大阪アクティブスタジオで開催しました。参加者は16名でした。

今回は、講師に長崎みなとメディカルセンターのICUに勤務されているクリティカルケア認定看護師の藤原源太氏をお迎えし「協同学習の技法(ジグソー)を用いたICU看護師の看護実践力を高める教育」をテーマに開催しました。

ICUは、難度の高い手術を受けられた方や救命後の回復期に必要な高度急性期医療と看護実践が求められる医療現場です。看護学生にとっては急性期看護を学ぶ臨地実習の場の一つであり、卒後の配属箇所にもなりますが、ICUは看護実践の難易度が高いため新人看護師の早期離職の課題も抱えています。そこで今回は、ICU看護師の看護実践力を高めるための教育システム構築に向け、協同学習の考え方と技法を用いた教育活動をされている藤原氏より、教育システムの構築に協同学習を用いた経緯、実践の成果と課題、今後の取り組み案についてご発表いただきました。

ICUという特殊な臨床現場にジ

グソーを用いた教育システムを構築していく際に留意する点、工夫できる点など、藤原氏から提示された参加者に検討していただきたいテーマ、について、各グループでの活発なディスカッションがなされ、貴重なアイデアが数多く提示されました。その過程で、看護基礎教育と卒後の現任教育との接続における協同学習の意義についてもあらためて再確認し合うことができました。

研究会後のアンケートでは、「認定看護師としてのpassion、vision、commitmentを持ち、日々の看護実践をされているところに刺激をいただき、私も学び続けていきたいと思えた」、「解決策について、自分事として全力で考え、意見を出し合ってください、その意見がどれも勉強になり自身の授業にも活かされると思った」、「ジグソーを進めるにあたり、チームづくりや全員がモチベーションを維持・向上して行くための全体を俯瞰するリーダーの役割・ホームチームの意味をあらためて学べた」「現任教育における協同学習の可能性や、ジグソーの大きな可能性を感じた」などの感想を寄せていただきました。

終了後は14名の方が懇親会に参加され、研究会のアイスブレイクで用いた「4つの事実」を使って参加者と交流を深め合い、有意義で楽しい語らいができました。(文責:緒方巧)

◇研究会発足11年目に入る今回の第55回研究会は、11月23日(土)13時30分からオンラインで開催いたします。テーマは「協同学習の考え方と技法を用いた効果的な振り返

# JASCE

りについて考える～グループ活動の振り返りに焦点をあてて～」です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先：研究会代表 緒方巧 (t-ogata@baika.ac.jp)



きょう探研(きょうどう探究型授業づくり研究会)

◇協同学習研修会

日時：8月2日(金) 9:00～15:30

場所：四条畷市立四條畷中学校(対面のみ開催)

今回の研修会は大阪の中学校の先生を中心に、小学校や高等学校、教育委員会の指導主事、また大阪での対面のみで開催であるにもかかわらずわざわざ愛知県からの参加もあり、合わせて20名ほどの参加がありました。

研修内容は、協同学習の基本的な考え方、協同学習の考え方を授業に応用するモデル(授業デザイン)の理解の後、参加者それぞれに授業プ

ランを考えてもらい、参加者同士で相互評価を行うというもので、実質5時間以上の充実した内容の研修会でした。

研修後、先生方からのアンケートから多くのフィードバックを得ましたので、それを改善に活かし、今後ともよりよい実践的な理論の構築を目指していきたいと思えます。

ご意見ご要望がありましたら、遠慮なく下記の連絡先までよろしくお願ひします。

きょう探研代表：中村哲也(常磐会学園大学) 連絡先：nani7272@yahoo.co.jp

(沖縄地域)

協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa

◇第2回協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa (以下研究会とする)を8月31日(土)13:00より開催しました。参加者は48名(県外4名を含む)でその内訳は以下のとおりです。

教育機関28名(大学3名、看護学校25名)、臨床19名、県行政看護担当1名。

テーマは「学生が実習での学びを共有する特派員活動」としました。

今回は臨床からの参加者が多く、また教育機関からの参加であつても協同学習は初めてという方が多いことを踏まえ、内容構成は、次のことに留意しました。1.協同学習の基礎基本である「課題明示」→「個人思考」→「集団思考」→「全体共有」を含める。2.協同学習の基本要素としてジョンソンの5要素を組み込む。これらのことから主テーマに関わる「特派員」の持つ教育的意義

の理解や活用場面のイメージづくりが容易になると考えました。

具体的には、展開Iとして協同学習の基礎基本と協同学習の基本要素であるジョンソンの5要素について、資料(「安永悟著：授業を活性化するLTDー協同を理解し実践する紙上研修会 医学書院」)を基にディスカッションし、それぞれが理解を深めるとしました。さらに、特派員活動の構成とジョンソンの5要素との関連性を確認しました。次に、「大谷選手と知り合いになるには」をテーマに参加者全員で特派員活動のミニ体験をしました。(現実的に実現可能なものから来生に期待するしかないものまで、実にユニークなアイデアが数多く出ました。さすが!です。)

その後、展開IIとして、実際の教育場面での活用について、実践報告をしました。参加者は、展開Iで体験した特派員活動と重ね合わせて実践報告を聞くことで特派員活動がより明確にイメージできたと考えます。次に展開IIIとして、参加者全員で「特派員の活用方法を探る」としてグループディスカッションを実施しました。そこで、多くの活用方法が提案されました。例えば①新人看護職員研修で活用(病棟の特徴や新人としての悩みを知る等)、②異学年交流 ③タスクシフト(多職種で話し合いをするときに活用)などです。研究会では、一つ一つ実現できるように、臨床と連携を深めながら進めていきたいと考えています。

最後に参加者の意見をまとめました(研究会企画・運営委員を除く)。

# JASCE

## 1. 本日の研究会の満足度

①非常に満足した：90%、②まあまあ、満足した：10%

## 2. 研究会で良かった内容

①臨床と教育現場とで目指す看護基礎教育を共有できることが分かった。②協同学習を知ることができた。③体験する研修で持ち帰る内容が多い。

## 3. 研究会への要望、企画してほしい内容等

①研究会の継続。②今回の経験を生かして、臨床現場と教育の乖離に係ることをテーマにして実施。③もう少し時間があればと思った（ただし、時間的にちょうどよかったとの意見もあり）。

## 4. その他、研究会に関する感想、意見等

①切れ目のない看護教育の重要性を再認識。②臨床の方との交流が良かった。③看護以外のパラメディカルの方の参加を期待。④初めての参加で学びの多い内容であった。⑤臨床と教育がいろいろな意見を出し合う場として繋がっていただけたいと思う。⑥沖縄の看護学生が大事に育成されていることが分かりました、等。

最後に企画・運営委員の振り返りとして、今回、特派員をテーマにし、協同学習の基本に拘った内容にしましたが、参加者の反応から協同学習の意味することは共有できたと思います。そして、本研究会の発足時のねらいの1つである「協同学習を仲立ちとして臨床と繋がる」ということについて、第I段階はクリアできたのではないかと考えます。また、県外から参加の安永悟先生からは、「臨床現場と教育機関が一緒に

学べる場所や機会があることは素晴らしい。さらに協同学習の基本を共通理解するというプログラムの工夫も良かったと思います。物事を継続していくためには常に基本に立ち返ることが大事である。このような研究会スタイルもいいのかなあと思えて思った。」とのコメントを頂き、企画・運営委員として、今後に対する自信に繋がりました。

連絡先：協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa 代表 浦添看護学校・学監・知念榮子(chinen\_e@sho-oh.ac.jp)

## (全地域)

### 全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』第22号を公刊しました。掲載論文▼

#### 1. 看図アプローチを活用した定時

制高校「英語表現I」の授業実践－協同学習促進ツール「きゅうちゃん」の有効性－(江草千春) kanzu-journal.vol.22\_pp.3-18.pdf (kanzu-approach.com)

2. 看図アプローチ協同学習を活用したライティングの実践－大学でのワークショップからの考察－(江草千春) kanzu-journal.vol.22\_pp.19-29.pdf (kanzu-approach.com)

3. きゅうちゃんの歴史(Ⅲ)－「出席確認」への活用－(石田ゆき) kanzu-journal.vol.22\_pp.31-48.pdf (kanzu-approach.com)

4. 編集後記(鹿内信善) kanzu-journal.vol.22-henshukoki.pdf (kanzu-approach.com)

連絡先：研究会事務局長 石田ゆき (kanzu.approach.office@gmail.com)

## 出版情報

### 『協同学習・LTD(話し合い学習法)授業モデルによる英語リーディング授業の改善と成果－英語自己効力感の観点から－』

【著者】和田珠実 一粒書房



本書は、大学初年次の英語リーディング授業に協同的な学びであるLTD(話し合い学習法)を導入し、それが学生の自己効力感や認知・態度面に与える影響を実証的に検討したものです。LTDを通じて批判的思考や読み物の深い理解を促進することで、英語リーディングに対する自信が向上するとともに、主体的な学習者としての成長が明らかにされています。また、LTDの導入が大学初年次の英語リーディング授業において効果的であることが確認され、学習者が英語リーディングを「訳してわかったつもり」から、テキスト内容を「自分ごと」として捉えられるような、主体的・対話的で深い学びを促進するための方法とその効果についても検証しています。